## 「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」 (第1版1刷・2刷用) 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。 最新の正誤表については、(一財) 日本建築センターホームページ (http://www.bcj.or.jp/) の書籍販売ページでご確認下さい。

H28/3/2

○:正誤あり -:修正済み

				(時の)り	一:修正符。
	該当箇所	誤	正	1 刷	2 刷
頁	行	<del>以</del>	112	H26. 9. 25	H26. 11. 25
7	上から7行目	各階の応答加速度値	各階床の応答加速度値	$\bigcirc$	$\circ$
7	上から 11 行目	…がある場合 <u>の予備計算</u> による…	…がある場合 <u>は解析結果</u> による…	$\bigcirc$	$\circ$
10	上から7行目	設計用水平震度 <u>K</u> s= …	設計用水平震度 <u>K</u> H= …	0	0
23	下から2行目	壁平行	長辺	0	0
24	③頂部支持材のアンカーボルトに作用する力	引抜き力 $R_b = \frac{T \cdot \sin \theta}{n_0}$ せん断力 $Q_b = \frac{T \cdot \cos \theta}{n_0}$	$X$ 方向 引抜き力 $R_b = \frac{N}{n_0}$ (解 3.3-3d) $Y$ 方向 引抜き力 $R_b = \frac{T \cdot \sin \theta}{n_0}$ 、 せん断力 $Q_b = \frac{T \cdot \cos \theta}{n_0}$ (解 3.3-3e)	0	0
27	指針図 3.4-3	h G	$h_{G}$ $h_{S}$	0	0
30	下から9行目	(指針式 <u>3.2-1</u> )	(指針式 <u>3.2-1a</u> )	0	$\circ$
		$-\frac{F_{H} \cdot h_{G} + (W - F_{V}) \cdot \ell_{G}}{+ (W - F_{V}) \cdot \ell_{G}}$	$= \frac{\mathbf{F}_{\mathrm{H}} \cdot \mathbf{h}_{\mathrm{G}} - (\mathbf{W} - \mathbf{F}_{\mathrm{V}}) \cdot \ell_{\mathrm{G}}}{\mathbf{H}_{\mathrm{G}} - (\mathbf{W} - \mathbf{F}_{\mathrm{V}}) \cdot \ell_{\mathrm{G}}}$		
32	上から 15 行目	$=\frac{-\frac{1}{H} - \frac{1}{G} \cdot (H - \frac{1}{G}) \cdot \frac{1}{G}}{n_{t} \cdot \ell}$	$=\frac{-\frac{1}{n_t} - \frac{1}{n_t} \cdot \ell}{n_t \cdot \ell}$	$\circ$	0
39	解図 3.4-7	図中の『容応』の文字を削除	n <sub>t</sub> ·	0	_
			<b>計算例のに維ドブ計算する</b>	0	
46	下から1行目	指針表3.3-2上面つなぎ材に準じて計算する。	計算例9に準じて計算する。		0
53	上から 11 行目	<u>f<sub>ts</sub>の検討を省略</u> している。	$\underline{f_{ts}} = \underline{f_t} \succeq U \subset V \subset S_o$	0	0
53	解図 4.2-1	Yes $ au$ $\leq 4.4$ kN/cm $^2$ * SS400ボルトの場合 No 計算 $(f_{ts}=1.4f_{t}-1.6 au)$	$ \begin{array}{c c} Yes \\ \hline  f_{ts} = f_t \end{array} $ $ \begin{array}{c c} f_{ts} = f_t \end{array} $	0	0
62	下から 11 行目	W:設備機器の重量 (cm)	W:設備機器の重量 ( <u>kN</u> )	0	_
62	下から10行目	W <sub>F</sub> :基礎重量 ( <u>cm</u> )	W <sub>F</sub> :基礎重量( <u>kN</u> )	0	_
62	下から8行目	比重量は普通コンクリートで 23×10 <sup>-6</sup> kN/m <sup>3</sup>	比重量は普通コンクリートで 23×10 <sup>-6</sup> kN/cm <sup>3</sup>	0	_
64	上から12行目	$A \cdot \underline{f} \geq R_b$	$\mathbf{A} \cdot \mathbf{f}_{t} \geq \mathbf{R}_{b}$	0	0
64	上から22行目	$F_C$ が不明な場合は $f_a = \cdots$	$F_{\rm C}$ が不明な場合は $F_{\rm C}$ 18 とし $f_{\rm a}=\cdots$	0	0
75	上から20行目	配管の有効質量は全質量の約0.6倍	配管の有効重量は全重量の約0.6倍	0	0
75	上から24行目	配管全質量	配管全重量	0	0
171	上から2417日	<ul><li>(4) 取付けボルトは JIS による中ボルトとする。</li></ul>	<ul><li>銀行生生生</li><li>銀 取付けボルトは中ボルトとする (中ボルト (SS400) は JIS による仕上げボルトの強度区分 4.6 p.233 参照)。</li></ul>	0	0
171	下から5行目	本例では簡便な <u>(ii)</u> の方法を	本例では簡便な②の方法を	$\circ$	_
176	上から6行目	=8,530 <u>kN</u>	=8,530 <u>kN • cm</u>	0	0
177	上から1行目	<u>fc'</u>	$\underline{f_c}$	0	0
177	下から9行目	型込式J形 ( <u>M6</u> )	型込式J形 ( <u>M16</u> )	0	0
179	上から2行目	アンカーボルトの選定	アンカーボルトの選定 ① 「付表 1」より  設置工法・・・・・・埋込式 J 形 (M20)、堅固  な基礎 とする  埋込長さ L=20cm、c=15cm、h=45cm  Ta=6π×L²×p(=0.01)=75.4kN>R <sub>b</sub>	0	0
179	上から3行目	解図 4.2-3 より	② 解図 4.2-3 より	0	0
180	下から1行目	=254kN> <u>220</u> kN OK	=254kN> <u>222</u> kN OK	0	0
181	上から3行目	=197kN	=197kN (角军式 3.5-3)	$\circ$	0
181	上から4行目	=61.5kN	=61.5kN (解式 3.5-6)	0	0
	•	•	· —————		

	該当箇所			1刷	2 刷
頁	行	誤	正	H26. 9. 25	Н26. 11. 25
- / (	1,1		アンカーボルトの選定		11201 111 20
			① 「付表 1」より		
			<u> </u>		
183	下から3行目	アンカーボルトの選定		$\bigcirc$	$\circ$
			な基礎 とする		
			<u>埋込長さ L=9cm</u>		
102		MINIST A D D D D	(引抜き力を生じないのでせん断力で選定)		
183	下から2行目	解図 4.2-3 より	② 解図 4.2-3 より	0	0
184	上から 12 行目	=18,600	=18,600 <u>kN · cm</u>	0	0
		<b>不一川山山</b> 重心	+ + + + + + + + + + + + + + + + + +		
			↑   ЫЫЫ 重心		
		2900	1 1		
		8	290		
		000 <del> </del>	1000		
186	計算例7図面寸法		-   <del> </del>	$\bigcirc$	_
100	可开门「囚曲」「囚			0	
		80	<b>1</b> • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		
		616	485		
		616	600		
		600	1		
188	上から7行目	径は <u>16</u> 本-M20とする。	径は <u>14</u> 本-M20とする。	$\circ$	$\circ$
189	下から6行目	$P=F_{H}/4=4.40/4=1.10kN$	$P=F_H/4=4.40/4=1.10kN$ $\underline{\ell_1}=69+69=138cm$	0	0
		$T_2 = \frac{M}{2\ell} + \frac{(\underline{M} + F_V)(\underline{\ell} - \ell_G)}{2\ell}$	$M = (\underline{W} + F_V)(\ell_1 - \ell_G)$		
189	下から4行目	$T_2 = \frac{1}{2\ell} + \frac{1}{2\ell}$	$T_2 = \frac{11}{2\ell_1} + \frac{\sqrt{1 - \ell_1}}{2\ell_1}$	$\circ$	$\circ$
100	上から3行目			$\circ$	
190	上かり311日	$N_{T}'=1.51+1.10=2.61$ kN	N <sub>T</sub> '=T <sub>2</sub> +T <sub>1</sub> =1.51+1.10=2.61kN	0	0
190	上から9行目	<ul><li>B材</li></ul>	□ B 材 (短い部材なので、座屈を無視して引	$\bigcirc$	$\bigcirc$
100	てから7年日	_2.74151	張り力に対して検討している。)		
190 190	下から7行目	=3.74kN =2.57kN	=3.74kN (解式 3.5-14)	0	0
190	下から3行目 上から9行目		=2.57kN <u>(解式 3.5-5)</u> 熱交換器	0	
192		熱交換 <u>機</u>		0	0
192	上から10行目	熱交換機   (円1 1-1 1-1 1-1 1-1 1-1 1-1 1-1 1-1 1-1 1	熱交換 <u>器</u> (//L = -0.01 la la ta )		
-	上から10行目	(但しp= <u>1</u> とした。)	(但しp= <u>0.01</u> とした。)	0	0
194	上から11行目	(但しp= <u>1</u> とした。)	(但しp= <u>0.01</u> とした。)	0	0
195	上から11行目	埋込長さ L= <u>60</u> cm	埋込長さ L= <u>6</u> cm	0	0
195	下から1行目	$h_G = 158 \text{cm}$	$h_G = 148 \text{cm}$	0	0
196	上から1行目	$\ell_{\rm G} = \underline{90}_{\rm Cm}$ (長辺)	$\ell_{\rm G} = 86  \mathrm{cm}$ (長辺)	0	0
196	上から5行目	= <u>1.22</u> kN/本	$=$ 0.95 kN/ $\Rightarrow$	0	0
		F <sub></sub> · h <sub></sub> 4 95 × 32	$P = Q_o + \frac{F_H \cdot h_G}{2\ell} = \underline{1.44} + \frac{4.95 \times 32}{2 \times 45} = \underline{3.20} \text{kN}$		
199	下から9行目	$P = Q_o + \frac{F_H \cdot h_G}{2 \ell} = \underline{144} + \frac{4.95 \times 32}{2 \times 45} = \underline{1.76} \text{kN}$		$\bigcirc$	$\circ$
		26 2 43	$\theta = 40^{\circ}$		
199	下から8行目	A 材の引張り力= $P \cdot \frac{1}{\tan \theta} + \frac{F_H}{2} = 4.24 \text{kN}$	A 材の引張り力= $P \cdot \frac{1}{\tan \theta} + \frac{F_H}{2} = \underline{6.29}$ kN	$\circ$	$\circ$
177	1 1 1 0 0 1 1 1	$\tan \theta$ $\frac{1}{2} = \frac{4.24 \text{KeV}}{2}$	$\tan \theta$ 2	0	
199	下から7行目	B 材の圧縮カ=P· 1 = 2.49kN	B 材の圧縮力=P	$\bigcirc$	0
		sinθ	B 材の圧縮力= $P \cdot \frac{1}{\sin \theta} = 4.98 \text{kN}$		_
199	下から5行目	引張り力 N <sub>T</sub> '= <u>4.24</u> kN	引張り力 N <sub>T</sub> '= <u>6.29</u> kN	$\circ$	0
200	上から1行目	$=\frac{4.24}{2.66 \times 20.7} + \cdots = 0.05 + 0.26 = 0.31 < 1.0$	$= \frac{6.29}{3.60 \times 23.5} + \dots = \underline{0.07} + 0.26 = \underline{0.33} < 1.0$	$\bigcirc$	0
		$3.60 \times 23.5$			
200	上から3行目	$N_{C}'=5.97 \text{ kN}$	$N_{\rm C}' = 4.98  \rm kN$	0	0
200	上から8行目	=82.9 kN > 5.97 kN OK	=82.9 kN > 4.98 kN OK	0	0
200	上から 10 行目	=0.96kN/本	=0.96kN/本 <u>(解式 3.5-11)</u>	0	0
200	下から 12 行目	< 10.2kN/cm <sup>2</sup> OK	$< 10.1 \text{ kN/cm}^2$ OK	0	0
203	計算例 17 の図	左側の図において、寸法『290』の左側の引き出し総	   位置を、アンカー位置から重心位置に修正	0	$\circ$
205	計算例 18 の図	左側の図において、寸法『290』の左側の引き出し総	位置を、アンカー位置から重心位置に修正	0	$\circ$
205	上から4行目	(2) 移動防止型ストッパ	(2) 移動防止型ストッパ (長辺方向)	$\circ$	$\circ$
205	上から5行目	(K <sub>H</sub> = <u>1.5</u> の場合)		0	0
205	上から6行目	$K_{H} = 1.5$	$K_{H} = 1.0$	0	0
205	上から7行目	$K_{V} = 0.75$	$K_{V} = 0.5$	0	0
205	上から10行目	ℓ <sub>G</sub> = <u>29</u> cm(長辺)	· <u>—</u> ℓ <sub>G</sub> = <u>55</u> cm(長辺)	0	0
205	上から11行目	$\ell$ =46cm	ℓ= <u>120</u> cm (長辺)	0	0
	, , , , ,	. <del>_</del>		-	

	該当箇所	誤	正	1刷	2 刷
頁	行	<del>以</del>	Ш	H26. 9. 25	H26. 11. 25
		(誤)	= <u>0.71</u> cm (指針式 3.4-1a)		
205	上から 17 行目	(正) $ T_0 = \frac{\{K_H \cdot h_G - \ell_G (1 - K_V)\} \cdot W}{\ell} = -0.44 \text{kN} $	_ (解式 3.4-1)	0	0
		ストッパの板厚 $ t \ge \sqrt{\frac{6K_H \cdot W \cdot \ell_2}{f_b \cdot (\ell_1 - m \cdot d_0) \cdot N_S}} =$	= <u>0.58</u> cm (指針式 3.4-1a)		
205	下から8行目	<u>0.71cm → 0.8cm</u> 以上の板厚とする。	<u>0.58cm</u> 以上の板厚とする。	0	0
205	下から7行目	アンカーボルト <u>転倒モーメントに対し不利</u> な長辺方向について検討する。	アンカーボルト	0	0
205	下から6行目	$R_{b} = \frac{\ell_{2} \cdot K_{H} \cdot W}{\ell_{5} \cdot m \cdot N_{S}} = \underline{3.36} \text{ kN/} \pm$	$R_{b} = \frac{\ell_{2} \cdot K_{H} \cdot W}{\ell_{5} \cdot m \cdot N_{S}} = \underline{2.24} \text{ kN/} $	0	0
205	下から5行目	$Q = \frac{K_H \cdot W}{m \cdot N_S} = \underline{2.1} \text{ kN/} \triangle$	$Q = \frac{K_H \cdot W}{m \cdot N_S} = \underline{1.4} \text{ kN/} $	0	0
206	上から4行目	(3) 移動・転倒防止型ストッパ	(3) 移動・転倒防止型ストッパ (短辺方向)	$\circ$	$\circ$
206	上から 17 行目	T <sub>0</sub> =···=2.58kN <u>(長辺)</u>	$T_0 = \cdots = 2.58$ kN	0	0
206	上から 21 行目	アンカーボルト 転倒モーメントに対し不利 な長辺方向について検討する。	アンカーボルト	0	0
206	上から 22 行目	引抜力 R <sub>b</sub> =…1.29kN/本 (指針式 <u>3.4-2a</u> )	引抜力 R <sub>b</sub> =…1.29kN/本 (指針式 <u>3.4-2c</u> )	0	0
207	下から3行目	設備用水平震度	設計用水平震度	0	0
208	上から7行目	設計用鉛直地震力 F <sub>V</sub> = <u>5.50</u> kN	設計用鉛直地震力 F <sub>V</sub> =6.99 kN	0	0
220	上から6行目	$P_a = 221N = 0.22 \underline{kN} \pm R_b = 0.20 \underline{kN}$	$P_a = 221N = 0.22 \underline{kN/x} > R_b = 0.20 \underline{kN/x}$	0	0
228	付録図 3-4 のキャプション	付録図 3-4 <u>水槽の有効重量比(α<sub>T</sub>)</u>	付録図 3-4	0	0

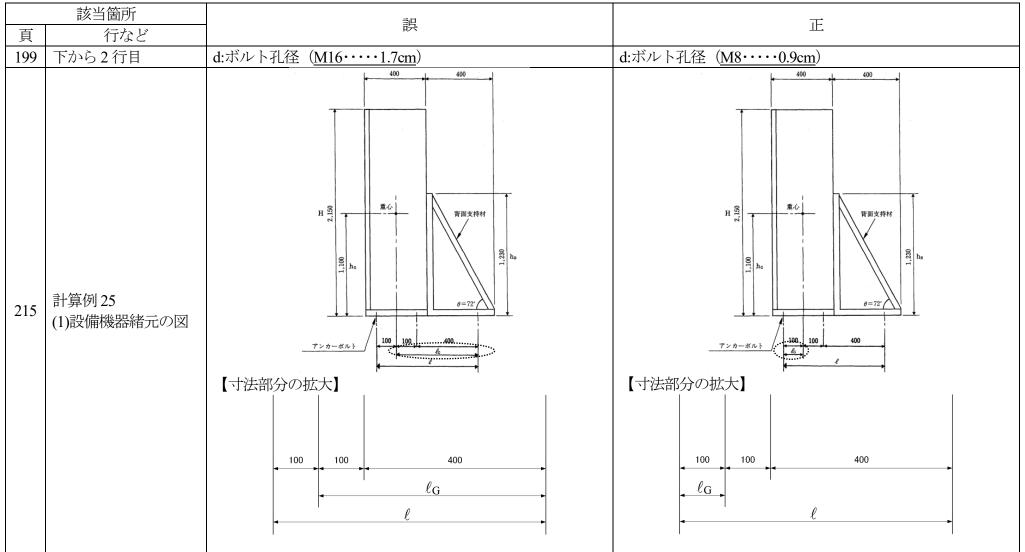
# 「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」 (第 1 版 3 刷用)正誤表

	きたソノケケラに		
	該当箇所	誤	正
頁	行		
24	③頂部支持材のアン カーボルトに作用す る力	$X$ 方向 引抜き力 $R_b = N$ (3.3-3d)	$X$ 方向 引抜き力 $R_b = \frac{N}{n_0}$ (3.3-3d)
44	6行目	…せん断が作用していることに留意する。	…せん断が作用していることに留意する。 <u>ただし、柱下端</u> が連結されている場合には両側柱を考慮できる。
	下から10行目	…抑制するよう耐震支持を行う。	…抑制するよう、 <u>指針表 6.2-1 に示す</u> 耐震支持を行う。
71	下から8行目	…抑制する耐震支持を行う。	…抑制する耐震支持を行う。 <u>ただし、電気配線・ケーブル</u> ラックの管軸方向については、指針表 6.2-1 による。
177	15 行目	$F_{H}' = \frac{F_{H}}{\underline{n}_{2}} = \frac{67.2}{4} = 16.8 \text{kN}$	$F_{H}'=\underline{\mathbf{n}\cdot\mathbf{Q}}=\frac{F_{H}}{\underline{\mathbf{n}_{3}}}=\frac{67.2}{4}=16.8$ kN $\underline{\mathbf{n}_{3}}$ は、柱下端を連結しているので両側端を考慮して(2×2=4)としている。
181	4 行目	$F_{H}' = \frac{F_{H}}{\underline{6}} = \frac{369}{6} = 61.5 \text{kN}$	$F_{H}'=\underline{\mathbf{n}\cdot\mathbf{Q}}=\frac{F_{H}}{\underline{\mathbf{n}_{3}}}=\frac{369}{4}=92.3$ kN $\underline{\mathbf{n}_{3}}$ は、柱下端を連結しているので両側端を考慮して(2×2=4)としている。
	9行目	② 解図 4.2-3 より	② <u>各柱にアンカーボルト 4 本として R<sub>b</sub>=49.3kN、</u> Q=23.1kN、解図 4.2-3 より
	10 行目	径は24本— <u>M20</u>	径は24本— <u>M22</u>
210	18 行目	$M_{V}' = P_{V} \cdot \underline{\alpha} = \cdots$	$M_V' = P_V \cdot \underline{\underline{a}} = \cdots$

### 「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」 (第1版 1刷・2刷・3刷共通)正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。 最新の正誤表については、弊センターホームページの当該書籍紹介ページでご確認ください。

H31/4/26



	該当箇所	誤	元
頁	行など	<del>以</del>	Ш.
216	上から9~10行目	<u>アンカーボルトの距離 ℓ<sub>Gl</sub>=10cm</u> 盤と背面支持材とのボルトスパン ℓ <sub>G2</sub> =40cm	<u>アンカーボルトの距離 ℓ<sub>G</sub>=10cm</u>
216	指針式3.2-1a の2行目	$= \frac{6.00 \times 110 - (3.00 - 3.00) \times 50}{60 \times 2} = 5.50 \text{kN}$	$= \frac{6.00 \times 110 - (3.00 - 3.00) \times 10}{60 \times 2} = 5.50 \text{kN}$

## 「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」 (第1版 1刷・2刷・3刷共通)正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。 最新の正誤表については、弊センターホームページの当該書籍紹介ページでご確認ください。

R1/7/24

	該当箇所		誤									正		
頁	行・図表				<del>识</del>							11.		
	付表 2.1-6		( <u>75</u> ×5×				i i	[-	-100× <u>!</u>	<u>50</u> ×5×	7. 5			
	(No.6つづき)	20	1500	1500	$[-125 \times 65 \times 6 \times 8]$	2-CM12	M16		20	1500	1500	$[-125 \times 65 \times 6 \times 8$	2-CM12	M16
	配管重量 P 20			2000	$[-125 \times 65 \times 6 \times 8]$	2-CM16	2-M16				2000	$[-125 \times 65 \times 6 \times 8$	2-CM16	2-M16
130	支持寸法0 2000			2500	$[-150 \times 75 \times 6.5 \times 10]$	3-CM12	2-M16				2500	$[-150 \times 75 \times 6.5 \times 10]$	3-CM12	2-M16
	h 500の行 及び			500	$[-100 \times 75 \times 5 \times 7.5]$	2-CM10	M16				500	$[-100 \times 50 \times 5 \times 7.5]$	2-CM10	M16
	1000の行の、			1000	$[-100 \times 75 \times 5 \times 7.5]$	2-CM10	M16				1000	$[-100 \times 50 \times 5 \times 7.5]$	2-CM10	M16
	• • • •		2000	1500	$[-125 \times 65 \times 6 \times 8$	2-M16	M16			2000	1500	$[-125 \times 65 \times 6 \times 8]$	2-M16	M16
	部材仕様 a 材の列			2000	$[-125 \times 65 \times 6 \times 8$	2-CM12	M16				2000	$[-125 \times 65 \times 6 \times 8$	2-CM12	M16
				2500	$[-150 \times 75 \times 6.5 \times 10$	2-CM16	2-M16				2500	$[-150 \times 75 \times 6.5 \times 10$	2-CM16	2-M16
		$\perp$ l		500	$\Gamma$ 100 $\times$ 50 $\times$ 5 $\times$ 7.5	2 M10	M16							

## 「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」 (第1版 全刷共通)正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。 最新の正誤表については、弊センターホームページの当該書籍紹介ページでご確認ください。

R2/3/10

	該当箇所	誤	正
頁	行など	<b>農</b>	TE.
10	21 行目	を用いて、設計用水平震度 K。を計算すると、・・・	を用いて、設計用標準震度 Ks を計算すると、・・・
49	指針表 4. 1-1	ボルトの種類     長期許容応力度(kN/cm²)     短期許容応力度(kN/cm²)       引張(f <sub>t</sub> )     せん断(f <sub>s</sub> )     引張(f <sub>t</sub> )     せん断(f <sub>s</sub> )       ボルト(SS400)     11.7     6.78     17.6     10.1       ステンレスボルト(A2-50)     10.5     6.08     15.8     9.12	ボルトの種類     長期許容応力度(kN/cm²)     短期許容応力度(kN/cm²)       引張(f <sub>t</sub> )     せん斯(f <sub>s</sub> )     引張(f <sub>t</sub> )     せん斯(f <sub>s</sub> )       ボルト(SS400)     11.7     6.78     17.6     10.1       ステンレスボルト(A2-50)     10.5     6.06     15.8     9.09
52	11 行目	・・・ボルトの「ねじ谷径断面/軸断面積=0.75」・・・	・・・ボルトの有効断面積「ねじ谷径断面積/軸断面積=0.75」・・・
125 136	左上の図	タイプ 1 口部	※「タイプ1」「タイプ2」の文字を削除 口部

	該当箇所	誤	正
頁	行など	PV.	
140	付表 2. 4-2 「全体架構図」の列	一	※Uボルトを追加
149	「タイプ1 配管を支持 材上部に設置の場合」 の図	タイプ1 配管を支持材上部に設置の場合	記管を支持材上部に設置の場合 ※タイプ 1 を削除

	該当箇所	÷u	T
頁	行など	誤	正
149	付表 2.4-2 「全体架構図」の列 「タイプ 2 配管を支持 材下部に設置の場合」 の図	ロ部 イ部 タイプ2 配管を支持材下部に設置の場合	ロ部 イ部 配管を支持材下部に設置の場合 ※「タイプ2」を削除
175	9 行目	重心位置 &=64cm	(「重心位置 ℓ <sub>c</sub> =64cm」を削除)

## 「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」 (第1版 全刷共通)正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。 最新の正誤表については、弊センターホームページの当該書籍紹介ページでご確認ください。

R2/6/24

	該当箇所				⇒ıµ							正 正		
頁	行など		誤									IE.		
162	付表 2.6-2 配管重量 20 支持材寸法& 500の行	20	-	L-100 × 100 × 10		$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	M10 M10 M10		20		-	-	$[-100 \times 50 \times 5 \times 7]$ $[-125 \times 65 \times 6 \times 8]$	
162	付表 2.6-2 配管重量 30 支持材寸法0 500の行	30	500 1000 1500	L-90 × 90 × 10 L-130 × 130 × 9 L-130 × 130 × 15	M16 M16 M16	$[-75 \times 40 \times 40 \times 5 \times 7$ $[-125 \times 65 \times 6 \times 8$ $[-125 \times 65 \times 6 \times 8$	M10 M10 M10		- 1	500 1000 1500	$L-90 \times 90 \times 10$ $L-130 \times 130 \times 9$ $L-130 \times 130 \times 15$ $1 \times 4 \times 10$	M16 M16 M16	[-75 × 40 × 5 × 7 [-125 × 65 × 6 × 8 [-125 × 65 × 6 × 8	M10 M10 M10
163	付表 2.6-3 配管重量 50 支持材寸法0 2000 の行	50	H	+ <del>- *</del>	+	6 H-100 × 100 × 6 × 8 6 H-125 × 125 × 6.5 × 9 6 H-125 × 125 × 6.5 × 9	<del>                                     </del>	1		<del>-   *</del>	$L-130 \times 130 \times 15$ $H-50 \times 150 \times 7 \times 10$ $H-175 \times 175 \times 7.5 \times 11$	+	H-100 × 100 × 6 × 8 H-125 × 125 × 6.5 × 9 H-125 × 125 × 6.5 × 9	M16

#### 「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(第1版 7刷)正誤表

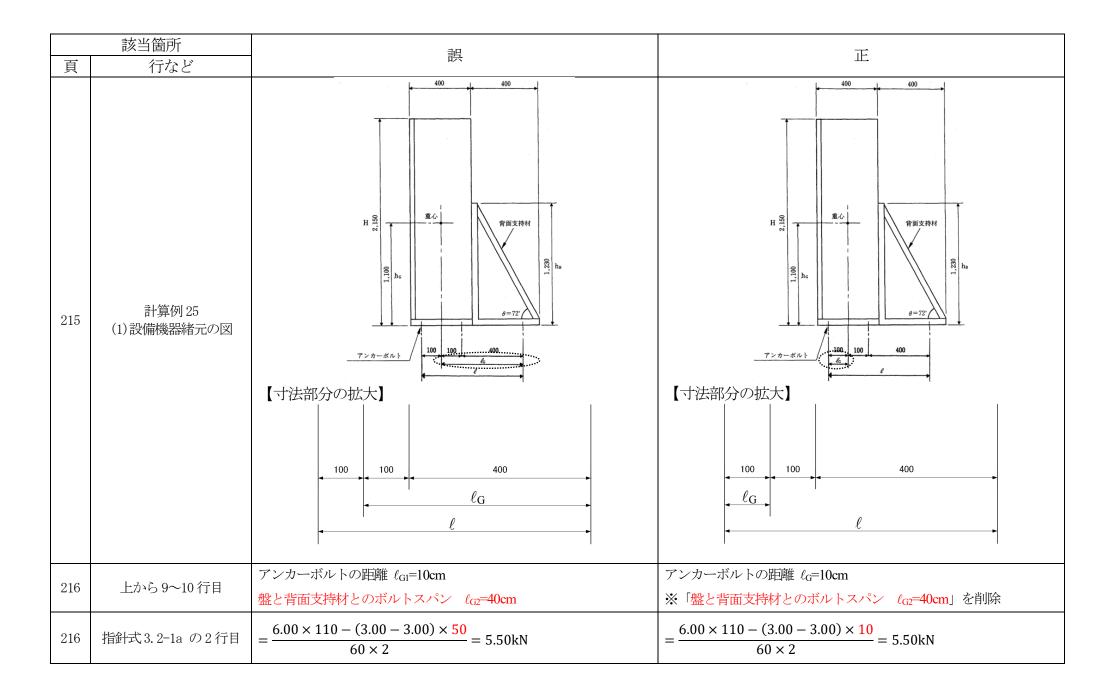
本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。 最新の正誤表については、日本建築センターホームページの書籍販売ページからご確認ください。

R2/7/2

	La \ La & k		NZ/ 1/ Z
	該当箇所	誤	正
頁	行など	"	
10	21 行目	を用いて、設計用 <mark>水平</mark> 震度 K。を計算すると、・・・	を用いて、設計用標準震度 K。を計算すると、・・・
49	指針表 4. 1-1		ボルトの種類 長期許容応力度 $(kN/cm^2)$ 短期許容応力度 $(kN/cm^2)$ 引張 $(f_t)$ せん断 $(f_s)$ 引張 $(f_t)$ せん断 $(f_s)$ ポルト $(SS400)$ 11.7 6.78 17.6 10.1 ステンレスボルト $(A2-50)$ 10.5 6.06 15.8 9.09
52	11 行目	・・・ボルトの「ねじ谷径断面/軸断面積=0.75」・・・	・・・ボルトの有効断面積「ねじ谷径断面積/軸断面積=0.75」・・・
130	付表 2.1-6 (No.6 つづき) 「配管重量」の「20」、 「支持材寸法」の「2000」 の行	$ \begin{array}{ c c c c c c c c c } \hline 20 & 1500 & [-125 \times 65 \times 6 \times 8 & 2\text{-CM12} & \text{M16} \\ \hline 2000 & [-125 \times 65 \times 6 \times 8 & 2\text{-CM16} & 2\text{-M16} \\ \hline 2500 & [-150 \times 75 \times 6.5 \times 10 & 3\text{-CM12} & 2\text{-M16} \\ \hline 500 & [-100 \times 75 \times 5 \times 7.5 & 2\text{-CM10} & \text{M16} \\ \hline 1000 & [-100 \times 75 \times 5 \times 7.5 & 2\text{-CM10} & \text{M16} \\ \hline 2000 & [-125 \times 65 \times 6 \times 8 & 2\text{-M16} & \text{M16} \\ \hline 2000 & [-125 \times 65 \times 6 \times 8 & 2\text{-CM12} & \text{M16} \\ \hline 2500 & [-150 \times 75 \times 6.5 \times 10 & 2\text{-CM16} & 2\text{-M16} \\ \hline \end{array} $	$ \begin{array}{ c c c c c c c c c } \hline 20 & 1500 & [-125 \times 65 \times 6 \times 8 & 2\text{-CM12} & \text{M16} \\ \hline 2000 & [-125 \times 65 \times 6 \times 8 & 2\text{-CM16} & 2\text{-M16} \\ \hline 2500 & [-150 \times 25 \times 6.5 \times 10 & 3\text{-CM12} & 2\text{-M16} \\ \hline 500 & [-100 \times 50 \times 5 \times 7.5 & 2\text{-CM10} & \text{M16} \\ \hline 1000 & [-100 \times 50 \times 5 \times 7.5 & 2\text{-CM10} & \text{M16} \\ \hline 2000 & [-125 \times 65 \times 6 \times 8 & 2\text{-M16} & \text{M16} \\ \hline 2000 & [-125 \times 65 \times 6 \times 8 & 2\text{-CM12} & \text{M16} \\ \hline 2500 & [-150 \times 75 \times 6.5 \times 10 & 2\text{-CM16} & 2\text{-M16} \\ \hline \end{array} $
125 136	左上の図	タイプ 1 口部	<ul><li>※「タイプ1」「タイプ2」を削除</li><li>口部</li></ul>

	該当箇所	誤	正
頁	行など	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Ш
149	付表 2. 4-2 「全体架構図」の列 「タイプ 1 配管を支持 材上部に設置の場合」 の図及びタイトル	一	※Uボルトを追加 ロ部 イ部
		タイプ1 配管を支持材上部に設置の場合	配管を支持材上部に設置の場合 ※「タイプ1」を削除

該当箇所		誤正
頁	行など	
149	付表 2.4-2 「全体架構図」の列 「タイプ 2 配管を支持 材下部に設置の場合」 の図のタイトル	タイプ2 配管を支持材下部に設置の場合 配管を支持材下部に設置の場合 ※「タイプ2」を削除
162	付表 2.6-2 「配管重量」の「20」、 「支持材寸法」の「500」 の行	500 L-90 × 90 × 6 M12 70 × 40 × 5 × 7 M10 1000 L-100 × 100 × 10 M12 [-100 × 50 × 5 × 7.5 M10] 20 1500 L-130 × 130 × 9 M12 [-125 × 65 × 6 × 8 M10]  500 L-90 × 90 × 6 M12 75 × 40 × 5 × 7 M10 1000 L-100 × 100 × 10 M12 [-100 × 50 × 5 × 7.5 M10] 20 1500 L-130 × 130 × 9 M12 [-125 × 65 × 6 × 8 M10]
162	付表 2.6-2 「配管重量」の「30」、 「支持材寸法」の「500」 の行	500   L-90×90×10   M16   [-75×40×40×5×7   M10   1000   L-130×130×9   M16   [-125×65×6×8   M10   1500   L-130×130×15   M16   [-125×65×6×8   M10   30   L-130×130×15   M16   [-125×65×6×8   M10   M16   L-130×130×9   M16   [-125×65×6×8   M10   M16   L-130×130×9   M16   L-125×65×6×8   M10   M16   L-130×130×15   M16   L-125×65×6×8   M10   M16   L-130×130×9   M16   L-130×130×9   M16   L-125×65×6×8   M10   M16   L-125×65×6×8   M10   M16   L-130×130×9   M16   L-130×130×9   M16   L-130×130×9   M16   L-125×65×6×8   M10   M16   L-125×65×
163	付表 2. 6-3 「配管重量」の「50」 「支持材寸法」の「2000」 の行	$ \begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$
175	9 行目	重心位置 l <sub>6</sub> =64cm」を削除
199	下から2行目	d:ボルト孔径 (M16·····1.7cm)   d:ボルト孔径 (M8·····0.9cm)



#### 「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(第1版 8刷)正誤表

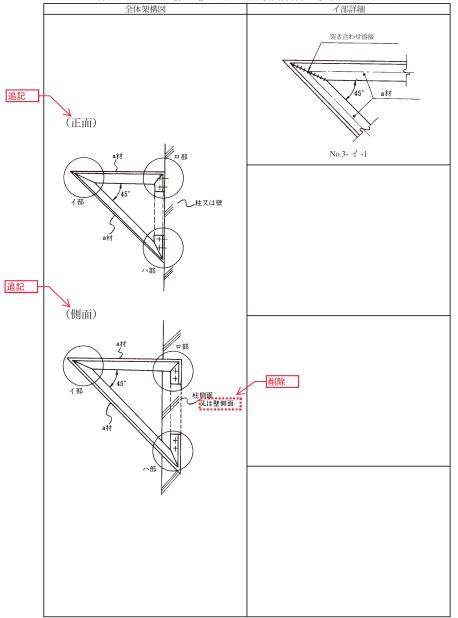
本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。 最新の正誤表については、日本建築センターホームページの書籍販売ページからご確認ください。

R3/12/21

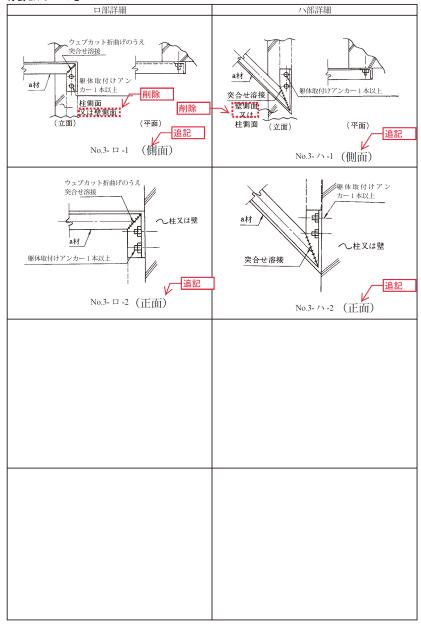
該当箇所		誤		正				
頁	行など	<b>决</b>			IE.			
126	付表 2. 1-3 付表 2. 1-4	各表右上の2行目 「柱固定」「壁固定」の記載 付表2.1-3 の例(他の3つの表も同様)			「柱固定(側面)」「柱・壁固定(正面)」と修正			
137	付表 2. 2-3 付表 2. 2-4	躯体取付けアンカー 柱固定 壁固定	部分詳細図 No 柱固定	. (付表 2. 4-3) 壁固定	躯体取付柱固定(側面)	けアンカー 柱・壁固定(正面)	部分詳細図 No 柱固定(側面)	). (付表 2. 4−3)   柱・壁固定(正面)
151 ~ 154	付表 2. 4-3 付表 2. 4-4	(修正内容は次ページ以降を参照してください。)						

p.152

付表 2.4-3 横引配管用 S<sub>A</sub> および A 種耐震支持材組立要領図の例 (No.3)



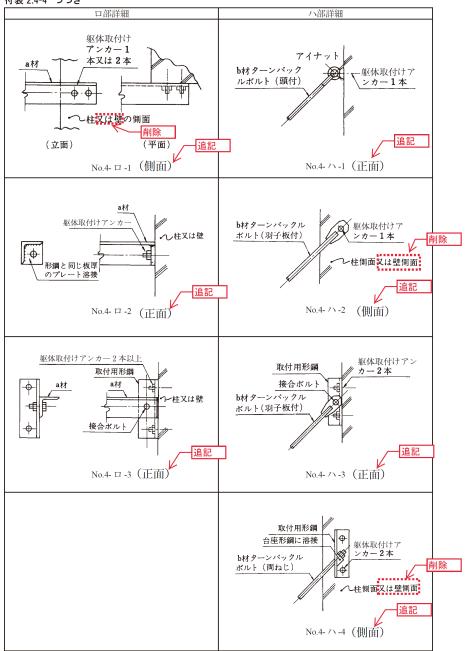
付表 2.4-3 つづき



p.153 付表 2.4-4 横引配管用 S<sub>A</sub> および A 種耐震支持材組立要領図の例(No.4) 全体架構図 イ部詳細 b材 ターンバックルボルト 追記 a材 (正面) No.4- 1 -1 ターンバックル b材つ 全様 性 と 追記 (側面) ハ部 削除 <u>\_ターン</u>バックル 壁側面 マ又は 柱側面 b材 口部 a材

p.154

付表 2.4-4 つづき



#### 「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(第1版 12刷)正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。 最新の正誤表については、日本建築センターホームページの書籍販売ページからご確認ください。

R7/10/7 (※先に公表しました 11 刷正誤表と同一内容です)

該当箇所		誤	元		
頁	行など	昳	此		
190	下から 15 行目	許容引抜き力 <u>引抜き力</u> T <sub>a</sub> = <u>4.50</u> kN>N <sub>T</sub>	許容引抜き力 T <sub>a</sub> = <u>6.70</u> kN>N <sub>T</sub>		
191	7 行目	許容引抜き力 T <sub>a</sub> = <u>4.5</u> kN>N <sub>T</sub>	許容引抜き力 T <sub>a</sub> = <u>6.70</u> kN>N <sub>T</sub>		
209	計算例 20: 消音器 枠内	■アンカーボルト	□アンカーボルト		